学校番号	T3015

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	(学)生活と被服	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

浴衣づくりを通して被服製作の基礎的・発展的な技術を身につけよう。また、日本の伝統的な衣服について知り、文化を継承しよう。

2　学習の到達目標

被服に関わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、基礎的・発展的な技術を身につける。

(1) 被服構成の基礎・構成技術・被服材料などに関する知識と技能を習得させ、被服を創造的に制作する能力と態度を身につける。

(2) 自分の生活をより美しく楽しいものにするために、生活にゆとりのあるものとするための思考力や、適切な被服材料を選択する判断力、それらを説明できる表現力を身につける。

(3) 用途に合った着装を実践できる力を身に付けるために,社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	被服の機能性や役割、構造などに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに創造的な技能を身に付けている。	状況や場面に応じた服装の機能性や快適性に関する課題を見つけ、思考力を深め、被服に関する職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	被服に関する諸問題に関心をもち自ら学び、社会における被服の役割や意義に、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	浴衣づくり	1　被服構成の基礎 2 被服の構成技法 3 和服の製作	a:糸通し、下糸出し、送り設定などの準備から片付けまでを一貫して行える。 b:製作状況に応じて、ミシンを用いるか、手縫いを行うかの判断力を身に付け 安全面に留意しつつ、その選択の説明が自ら行える。 c: 被服製作技術に興味をもち作業に積極的に取り組もうとしている。	観察 実習 プリント	観察 実習 プリント	観察 実習 プリント
後期	浴衣づくり	1 和服の製作(続き) 2 和服の素材と用具 3 日本の文様・着付け	a:複雑な縫い方や作品の形状に合わせて異なる材料を縫合することができる。 b:目的や条件に応じて縫合方法を判断し、材料や工程を考える力が身についている。 c:縫合方法に興味をもち積極的に取り組もうとしている。	観察 実習 プリント	観察 実習 プリント	観察 実習 プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度